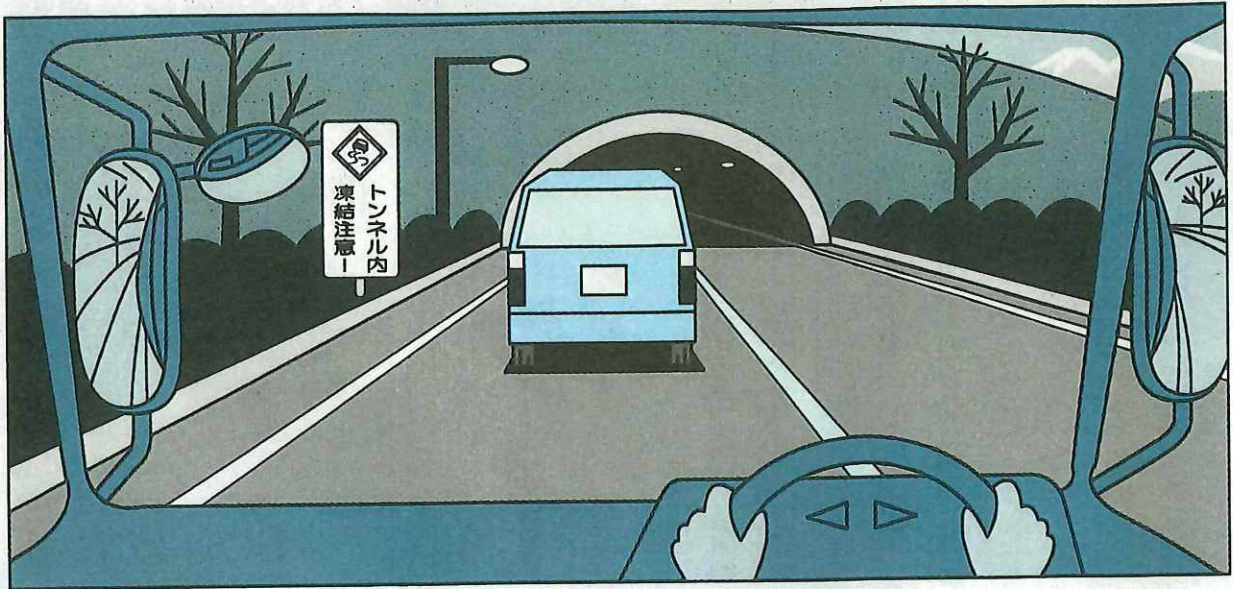


# 危険予知訓練 (KYT) シート：交通事故防止編 あなたならどうしますか？

## 〔第 143 回〕「冬のトンネル」

状況

あなたは、2月中旬の夕方、トンネルの入口に差しかかっています。自車の前方にはワゴン車が走行しています。この場面にはどのような危険がありますか。また、危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



◆どのような危険がありますか？

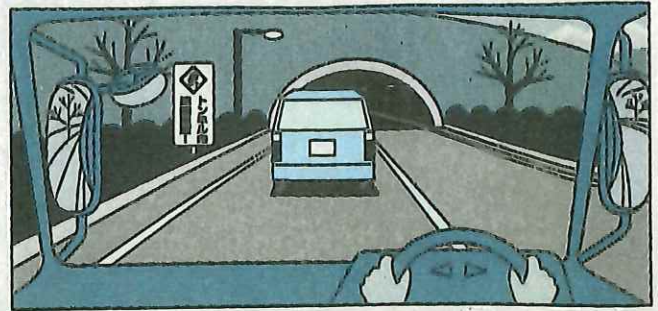
◆どのような運転をすれば危険を避けることができますか？



# 危険予知訓練(KYT)シートの解説

## ▶ 交通事故防止編

あなたは、2月中旬の夕方、トンネルの入口に差しかかっています。自車の前方にはワゴン車が走行しています。この場面にはどのような危険がありますか。また、危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



### どのような危険がありますか？

- ①トンネルの入口で、減速した車に追突する危険があります(図1)。
- ②入口付近やトンネル内が凍結していると、スリップして側壁やガードレールに衝突する危険があります(図2)。
- ③出口での気象の変化(積雪、強風)などに驚き、運転操作を誤り横転する危険があります(図3)。

### どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

- ①明るい外から暗いトンネルに入る時、目が暗さに順応できず、一瞬も見えないような状態(暗順応)になるため、トンネルの入口付近では、減速する車が少なくありません。追従しているからと漫然と運転していると、減速した前車に対応できず、追突する危険があります。前車に追従しながらトンネルの出口付近に差しかけた時は、十分な車間距離をとりましょう。
- ②積雪していない場合でも、とけた雪が凍って路面が凍結していることがあります。トンネルの出入口は凍結しやすいため、特に慎重に運転する必要があります。また、トンネルの中は雪や雨の影響を受けないため凍結しないと考えがちですが、降雪地帯のトンネルの場合は、走行車両が落とした雪によって、部分的に路面が凍結していることがあります。この場面でも、トンネルの手前にトンネル内の凍結に注意を喚起する看板があります。このような注意喚起の標示を見落とさないとともに、路面の状態に目を配りながら慎重な運転を心がけましょう。
- ③トンネルの入口と出口では、晴れから雨や雪など、天候が大きく変わっていることがあるほか、横風でハンドルが取られることがあります。入口と同じだろうと考えて漫然と走行すると、出口での気候の変化に慌てて運転操作を誤る危険があります。出口では気象状況な

図1

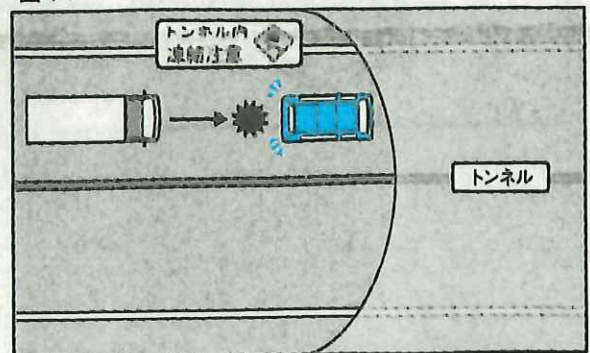


図2

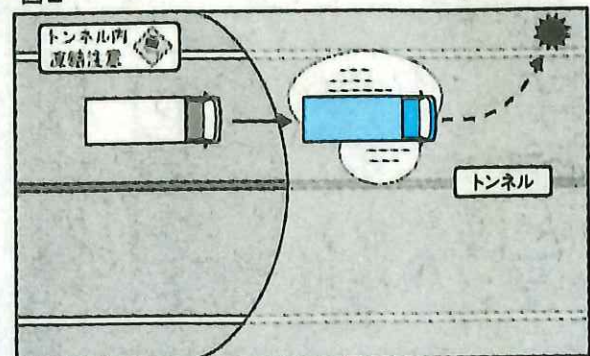
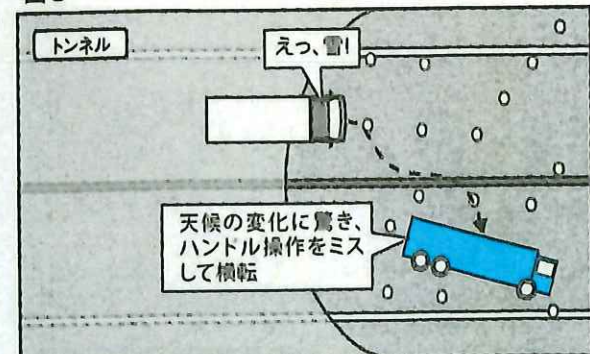


図3



どが変化していることを予測して、あらかじめ減速しておくとともに、早めの状況把握に努めるなど慎重な運転を心がけましょう。